

社会福祉協議会の総合事業・体制整備事業における役割は何か

提言

社会福祉協議会は、住民、ボランティア、NPO、社会福祉法人等、多様な主体のプラットフォームとして、総合事業を推進していこう。

登壇者

【進行役】	高橋 良太氏	(社福) 全国社会福祉協議会地域福祉部長
	太田 美津子氏	板橋区第1層SC
	佐藤 小百合氏	村上市第2層SC
	龍井 久美氏	(社福) 対馬市社会福祉協議会事務局長
	関口 和宏氏	三芳町第1層SC

■ 寄せられた声から

- 太田氏の話、大変勉強になりました。
- 介護保険が地域の助け合いを分断。今、助け合いを再び…。SC自身がそういった背景を知ったうえで納得しているか？ 丁寧な説明が必要では。

議事要旨 高橋 良太氏

2017年度市区町村社会福祉協議会職員状況調査によると第1層生活支援コーディネーター（SC）を受託している市区町村社協の割合は53.1%に上る。SCの活動は、社協にとって新しい考え方・手法によるものではなく、社協がこれまで培ってきたコミュニティワークの専門技術を地域支援に適用するものである。

本分科会では、市区町村社協が行政や関係団体とネットワークを組み、事業を推進している以下の4つの事例の共有を通し、この事業における社協が果たすべき役割を参加者とともに考える機会とした。

まず、新潟県村上市社協の佐藤小百合氏からは、第2層圏域におけるまちづくり協議会とむらかみ互近所ささえ〜隊との協働の取り組みが報告された。2つの組織が周知活動や勉強会を重ね、地域資源を把握し、住民主体の取り組みがない場合には新たに活動や資源を作り出す。地域を最もよく知る社協だからこそ、また、社協にしかできない地域福祉推進の醍醐味が語られた。

長崎県対馬市社協の龍井久美氏からは、社協が本来担うべき地域福祉活動の取り組みそのものが、生活支援体制整備事業であることが語られた。誰かの困り事をそのままにせず、支え合う仕組みを住民自らが考える。その場やきっかけをつくるのがSCの役割。助け合い活動の根底にある住民主体の取り組みを活性化し、単に事業をするだけの社協から、住民とともに共生社会を実現しようとする強い意気込みが感じられた。

埼玉県三芳町社協の関口和宏氏からは、社協の培ってきたあらゆるノウハウ、ネットワークを活かした地域づくり、支え合い活動づくりが生活支援体制整備事業であること、またそれは社協のミッションである制度の狭間にある社会課題を住民の力によって解決する地域福祉の取り組みと一致すること。何よりも住民自身の取り組みによる課題解決力を信じる、住民と協働するSCの重要性が強調された。

板橋区社協の太田美津子氏からは、地域みんなの力を結集する取り組みが協議体でありSCであること、取り組む際に重要なのは地域づくりの支援であり、サービスづくりではないことが語られた。また、SCの心構えとして、じっくりと腰を据えて結果をあせらないこと、行政も社協も手を引かない覚悟が重要なこと、地域性を尊重し型にはめすぎない柔軟な取り組みが大切であること、今ある活動やつながりを活かすことが報告された。

いずれの事例も、住民の主体形成や地域におけるさまざまな機関・団体間のネットワークが重要であることが語られ、その要としてのSCの役割の大切さが示された。

社協は地域住民や自治会等地縁組織、ボランティア・NPO、社会福祉法人、そして行政を交えた総合事業・体制整備事業推進におけるプラットフォームとしての役割が求められていることが分科会における協議により明らかにされた。

アンケートの結果 参加者概数：88名 回答者数：60名

